

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム

## 令和4年度改訂版（案）概要

歯学調査研究チーム座長

河野 文昭

# 今回の改訂の基本方針（再提示）

- 1) アウトカム（学修成果）基盤型カリキュラムへの深化
- 2) コアカリの構成の変更
- 3) 『超高齢社会への対応等』社会ニーズを踏まえた学修目標の見直し
- 4) 診療参加型臨床実習の充実による資質・能力の向上
- 5) 医学教育・歯学教育・薬学教育の各コアカリの一部共有化
- 6) 学修目標の総量の適正性

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案の構成

- 方略・評価の章を新設し、コアカリの構成を変更した。
  - 第1章 歯科医師として求められる基本的な資質・能力
  - 第2章 学修目標
  - 第3章 学修方略・学修評価
- 診療参加型臨床実習実施ガイドライン
- 参考資料
  - 資質・能力をかん養する学修目標を含む主な小項目
  - 「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」今回の改訂までの経緯
  - 医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な組織の設置について
  - 医師・歯科医師・薬剤師が関わる法令一覧
  - 略語集
- 索引

# 歯科医師として求められる資質・能力

|                    | コンピテンシー<br>(卒業時に求められる能力) |       |   |
|--------------------|--------------------------|-------|---|
| • 改訂（案）            |                          |       |   |
| 1. プロフェッショナリズム     | 6 項目                     |       |   |
| 2. 総合的に患者・生活者を見る姿勢 | 5 項目                     |       |   |
| 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢   | 5 項目                     |       |   |
| 4. 科学的探究           | 6 項目                     |       |   |
| 5. 専門知識に基づいた問題解決能力 | 12 項目                    |       |   |
| 6. 情報・科学技術を活かす能力   | 6 項目                     |       |   |
| 7. 患者ケアのための診療技能    | 10 項目                    |       |   |
| 8. コミュニケーション能力     | 5 項目                     |       |   |
| 9. 多職種連携能力         | 4 項目                     |       |   |
| 10. 社会における医療の役割の理解 | 7 項目                     | 合計    |   |
|                    |                          | 66 項目 | 4 |

# 第4回連絡調整委員会でのご指摘を受けた修正

## 第2章「A 生命科学」の変更点

### 【学修目標の移動と整理】

コアカリ策定時から臨床歯学（D-3）に含まれていた頭頸部領域の正常構造と機能の項目を生命科学の中に含めた。

#### A-2 人体各器官の発生、成長、老化と死

##### A-2-1 個体の発生

##### A-2-2 個体の成長発育

##### A-2-3 個体の老化と死

##### **A-2-4 口腔、顎顔面領域の発生と加齢変化**

#### A-3 人体各器官の正常構造と機能

##### A-3-1 身体を構成する組織と器官

##### **A-3-2 頭頸部の基本構造と機能**

##### **A-3-3 口腔領域の構造と機能**

##### **A-3-4 歯と歯周組織の構造と機能**

赤字の項目を含めたことで、従来の生命科学の中で記載されていた全身および口腔に関する内容を、全身だけの内容に変更している。

## 第2章「C 社会と歯学」の変更点

- ・マウスガードに関する学修目標の追加

# パブコメを受けたコアカリへの反映

## 第1章 歯科医師として求められる基本的な資質・能力の変更点

- ・卒業時に求められる能力の修正

PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)

PR-06

(修正前)

自己省察し、改善につなげることができる。

PR-04と明確に区別した



(修正後)

同級生や後輩、同僚、チーム構成員に対して協調的にふるまうことができるとともに、必要に応じて助言、指導ができる。

- ・全般的に動詞を見直した

(修正前) 実施する → (修正後) 実践する

医学コアカリと表記を統一した



# パブコメを受けたコアカリへの反映

## 第2章「C 社会と歯学」の変更点

### 【学修目標】

- 法歯学に関する修正

- 表記を医学にそろえた。正式名は別途記載することとした。

- 医療・保健・福祉・介護の制度に関する修正

- 産業保健の視点が抜けていたため、さらに拡大して職場を追加した。

- 保健医療情報リテラシーに関する修正

- IoTはICT技術の一つであり、直接的に数理・データサイエンスの一分野と位置づけるのは語弊があるため併記とした。

# パブコメを受けたコアカリへの反映

## 第2章「D 臨床歯学」「E 診察・診断と治療技能」の変更点

### 【学修目標】

- 摂食嚥下障害に関する修正

  - 成人の中途障害を加え、全ての年齢層に対応した。

- 歯周病の治療に関する修正

  - 歯周治療後のサポータティブペリオドンタルセラピー（SPT）の追加

- 用語、字句の最終調整

## 参加型臨床実習の内容と分類の変更点

| I a. 患者への診療として自験する課題 |       |   |
|----------------------|-------|---|
| E-5-3 高頻度治療          | 保存修復系 | コンポジットレジン修復(単純窩洞)<br>象牙質知覚過敏処置<br>補修修復                                  |
|                      | 歯内治療系 | 感染根管治療(単根歯)   |
|                      | 歯周治療系 | 歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)<br>サポータティブペリオドンタルセラピー(SPT) 追記<br>メンテナンス |

表 1 の変更点

|     |     |   |
|-----|-----|---|
| 神経系 | 認知症 | Alzheimer 病<br>脳血管性認知症<br>Lewy小体型認知症 追記 |
|-----|-----|---|

## 第4回連絡調整委員会でのご指摘を受けた修正

表2 ←抜本的な見直しを実施

- 局所的症候： ①症候の項目の見直し  
 ②カテゴリとサブカテゴリの追加  
 ③これに合わせて鑑別すべき疾患を統合、調整した。

### 局所的症候

#### ①口腔及び顎顔面領域の痛み

| 疾患名   |
|---|
| 歯髄炎、象牙質知覚過敏、歯周疾患、口内炎、顎関節炎、骨髄炎、三叉神経痛、外傷後三叉神経障害性疼痛、帯状疱疹による三叉神経障害性疼痛、帯状疱疹後三叉神経痛、舌咽神経痛、持続性特発性歯痛・顔面痛、口腔内灼熱痛症候群(舌痛症)、身体症状症、悪性腫瘍 |



#### 口腔及び顎顔面領域の痛み

| 局所的症候        | カテゴリ   | サブカテゴリ   | 鑑別すべき疾患等   |
|--------------|--------|----------|--|
| 口腔及び顎顔面領域の痛み | 歯の痛み   |          | 象牙質知覚過敏症、齲蝕、歯髄疾患、根尖性歯周疾患、歯周疾患、歯の外傷(歯の脱臼、歯冠破折、歯根破折等)  |
|              | 歯肉の痛み  |          | 歯周疾患(歯冠(智歯)周囲炎等)、根尖性歯周疾患、口腔粘膜疾患(アフタ性口内炎、ウイルス性口内炎、自己免疫性水疱症、褥瘡性潰瘍、壊死性潰瘍性歯肉口内炎、口腔扁平苔癬等)、悪性腫瘍                                    |
|              | 顎骨の痛み  |          | 顎骨の炎症(顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、顎骨周囲組織の炎症、歯冠(智歯)周囲炎、放射線(性)骨壊死、薬剤関連顎骨壊死等)、顎関節疾患(顎関節症、顎関節炎等)、顎骨骨折、悪性腫瘍、特異性炎(真菌症、ウイルス性疾患、細菌感染症、サルコイドーシス等) |
|              | 舌の痛み   |          | 口腔粘膜疾患(アフタ性口内炎、ウイルス性口内炎、自己免疫性水疱症、口腔カンジダ症、褥瘡性潰瘍、口腔乾燥症等)、悪性腫瘍  |
|              | 顔面の痛み  |          | 顎骨の炎症(顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、顎骨周囲組織の炎症、歯冠(智歯)周囲炎、放射線(性)骨壊死、薬剤関連顎骨壊死等)、上顎洞炎  |
|              | 顎下部の痛み |          | 顎骨の炎症(顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、顎骨周囲組織の炎症、歯冠(智歯)周囲炎、放射線(性)骨壊死、薬剤関連顎骨壊死等)、リンパ節炎、唾液腺疾患(顎下腺唾石症、顎下腺炎等)、悪性腫瘍のリンパ節転移                         |
| 上記以外の口腔顔面の痛み | 関連痛    |          | 筋・筋膜性口腔顔面痛、一次性頭痛由来(片頭痛、群発頭痛等)、虚血性心疾患   |
|              |        | 神経障害性疼痛  | 三叉神経痛、舌咽神経痛、外傷性神経障害  |
|              |        | 特発性口腔顔面痛 | 口腔灼熱症候群(Burning Mouth Syndrome)  |

### ⑩ 歯や歯周組織を中心とした腫脹

|  | 鑑別すべき疾患名  |
|--|---|
|  | 歯周疾患、骨髄炎、蜂窩織炎、口唇炎、唾石症、唾液腺炎、ウイルス・細菌・真菌感染症、良性腫瘍、悪性腫瘍、顎骨嚢胞、軟組織嚢胞 |

### ⑪ 口腔及び顎顔面領域のリンパ節腫脹

|  | 鑑別すべき疾患名  |
|--|---|
|  | 歯周疾患、骨髄炎、蜂窩織炎、結核、扁桃炎、風疹、伝染性単核球症、悪性リンパ腫、その他の悪性腫瘍全般 |

### ⑫ 口腔及び顎顔面領域の外傷

|  | 鑑別すべき疾患名                            |
|--|-------------------------------------|
|  | 軟組織の損傷、血腫、歯の脱臼、歯の破折、歯槽骨骨折、顎骨骨折、頬骨骨折 |



### 口腔および顎顔面領域の腫脹

| 局所的症候        | カテゴリ      | サブカテゴリ | 鑑別すべき疾患等   |
|--------------|-----------|--------|--|
| 口腔及び顎顔面領域の腫脹 | 口唇の腫脹     |        | 口唇炎(肉芽腫性口唇炎、アレルギー性口唇炎等)、浮腫(クインケ浮腫、遺伝性血管性浮腫等)、嚢胞(類皮嚢胞、類表皮嚢胞等)、唾液腺疾患(粘液嚢胞等)、良性腫瘍(血管腫、多形腺腫等)、悪性腫瘍   |
|              | 頬部の腫脹     |        | 顎骨の炎症、唾液腺疾患(耳下腺腫瘍、耳下腺唾石症、流行性耳下腺炎等)、良性腫瘍、悪性腫瘍   |
|              | 歯肉の腫脹     |        | 歯周疾患(歯冠(智歯)周囲炎等)、根尖性歯周疾患、良性腫瘍、悪性腫瘍、歯肉増殖症   |
|              | 舌の腫脹      |        | 顎骨の炎症(顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、顎骨周囲組織の炎症、歯冠(智歯)周囲炎、放射線(性)骨壊死、薬剤関連顎骨壊死等)、舌の炎症、嚢胞(粘液嚢胞等)、浮腫(クインケ浮腫、遺伝性血管性浮腫等)、悪性腫瘍、良性腫瘍                             |
|              | 口底部の腫脹    |        | 顎骨の炎症(顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、顎骨周囲組織の炎症、歯冠(智歯)周囲炎、放射線(性)骨壊死、薬剤関連顎骨壊死等)、口底蜂窩織炎、唾石症、舌下腺炎、線維腫・脂肪腫、血管腫、リンパ管腫、口底癌、唾液腺腫瘍、ラヌーラ、類皮嚢胞・類表皮嚢胞、IgG4関連疾患      |
|              | 顎下部・顎部の腫脹 |        | 顎骨の炎症(顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、顎骨周囲組織の炎症、歯冠(智歯)周囲炎、放射線(性)骨壊死、薬剤関連顎骨壊死等)、唾液腺疾患(顎下腺唾石症、顎下腺炎、粘液嚢胞、唾液腺腫瘍、IgG4関連疾患等)、リンパ節炎、悪性腫瘍のリンパ節転移、嚢胞(甲状舌管嚢胞、鰓嚢胞等) |

## 表2の説明文の追加

症候から想定すべき代表的な原因疾患例等を記載したが、  
症候に該当する疾患を網羅しているわけではない。臨床推論  
では可能性のある症候や病態から原因疾患を鑑別診断するプ  
ロセスが重視され、原因疾患を単純に全て暗記することを期  
待しているものではない。

# パブコメを受けたコアカリへの反映

## 第3章「方略・評価」の変更点

- 各歯科大学・歯学部の今後のカリキュラム編成の参考になるように Good Practiceとしての事例を掲載した。
- 平成4年7月27日開催の文部科学省主催「医学・歯学教育指導者のためのWS」において、テーマ別グループ討論における各大学の取り組み事例の中から、コアカリ収載に適した事例（GP）を3件追加した。
  - 「総合的に患者生活者を見る姿勢」：1件
  - 「歯科医師としてのプロフェッショナルリズム教育」：2件

# 今後の活動

- コアカリの英訳
- コアカリ改訂の周知
  - ・ シンポジウムの開催など

ご清聴ありがとうございました。